

2026年8月6日

2026年熊本地震による地盤災害の調査速報

2026年7月28日16時27分発生、
Mj=7.1、深さ16km(暫定値)

(気象庁による)

東京電機大学 安田進

1

はじめに

今回の震災で犠牲になられた方々に今回の震災で犠牲になられた方々に哀悼の意を表すとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日でも早い復旧・復興をお祈りいたします。

調査目的

10年前の2016年熊本地震では、液状化による住宅被害や河川堤防被害など地盤に関係した被害が多く発生し、地震後に対策を施した復旧が行われたので、その対策効果を確認することを主目的としました。さらに今回は地表断層による被害が多く発生したので、そのような地盤に関係した被害の調査も目的とし、8月1日と2日の2日間現地調査を行いました。短期間の調査であり被災状況をきちんと把握できていない可能性もありますので、速報として見ていただければ幸いです。

謝辞

朝日新聞社・竹野内記者から同行取材の依頼があり、一緒に現地調査を行ないました。また、基礎地盤コンサルタント(株)熊本支店の中川智博様には現地を案内していただきました。これらの方々に感謝する次第です。

2

調査箇所

- ①熊本市南区刈草
- ②上益城郡甲佐町
- ③上益城郡益城町
- ④上益城郡嘉島町（緑川堤防）
- ⑤上益城郡御船町辺田見
- ⑥上益城郡御船町滝尾
- ⑦宇城市小川町
- ⑧八代郡氷川町野津
～八代市鏡町下有佐付近
- ⑨八代市鏡町鏡、内田
- ⑩八代市上片町
- ⑪八代市新港町



3

①熊本市南区刈草1丁目

2016年熊本地震による被災状況



2026年熊本地震後の状況



- 2016年熊本地震では細長い地区（近見地区と一般に呼ばれている）で液状化により建物が多く沈下・傾斜。
- 地震後、「宅地液状化防止事業」により被災地区に地下水位をGL-3m程度まで下げて対策を施して復旧。
- 2026年熊本地震では液状化は発生せず建物や道路など無被災。

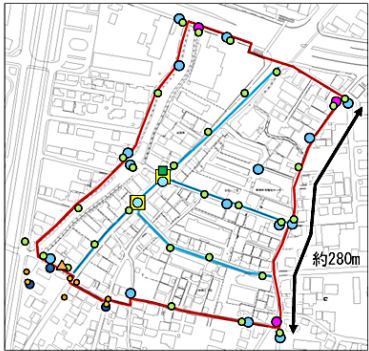
4

2016年熊本地震による他の箇所の被災状況



5

2016年後に行われた液状化対策方法



- 縮尺 100m
- 遮水壁(鋼矢板等)
 - 集水管
 - マンホールポンプ
 - 単独井戸
- 集水管と単独井戸を設置し、地下水位をGL-3m程度まで下げて対策

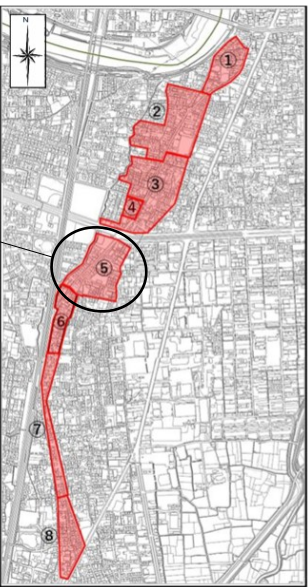
(熊本市液状化対策技術検討委員会による)

刈草

マンホール設置箇所のマンホール蓋



刈草地区の対策範囲



6

②上益城郡甲佐町芝原

2016年熊本地震による被災状況とその後の対策

- 砂利採取後に砂で埋め戻して造成された団地。
- 地震で液状化し多くの家が大きく沈下・傾斜。
- 2016年の地震の後、集水管を道路の下に設置して地下水位を下げる、地区全体の液状化対策を実施。



2026年熊本地震での状況

集水管で集めた地下水の水路への排水状況



- 集水管で集めた地下水が水路に排水されていた。

住宅の状況



- 家の沈下や傾斜は殆ど生じていないようであった。
- 一部の箇所では噴泥が少し発生。
- 住民の方の話によると、10年前の地震より激しい揺れで、家具の転倒などで家の中は散乱したとのことである。

③上益城郡益城町

2016年熊本地震による被災状況



➤ 九州自動車道の盛土が被災。

2026年熊本地震後の状況



➤ 無被災。

9

④上益城郡嘉島町（緑川堤防）

緑川右岸9.7k付近



- 細い縦断クラックが発生。
- 堤内地、堤外地とも噴砂発生。

堤外地で生じた噴砂



堤内地で生じた噴砂



0

⑤上益城郡御船町辺田見 中原団地

2016年熊本地震での状況



⑥上益城郡御船町滝尾

2016年熊本地震での状況



- 両団地とも外周を車で回ってみたが特に被害が無いように見られた。
- ただし、団地内を詳細には調査していないので断定はできない。

11

⑦宇城市小川町

- 北部田水園公園のため池は一部外側に少しズレ。
- ため池下の道路で舗装が突上げ。
- 断層に沿って水道管（Φ300mm、配水管）がA～Dの4箇所で復旧工事中（8月2日時点）。
- 水道管は全て継手が抜け、一部鉛直方向にズレ。
- T地点で1mの段差発生。そのため断層上の建物は傾斜。



12

北部田水園公園のため池

ため池堤体の一部のズレ



ため池の下の道路における舗装の突上げ



13

A地点の水道管の被害



14

B地点の水道管の被害



15

B地点から南西に向かって生じた断層



16

C地点の水道管の被害



17

D地点の水道管の被害



18



- 2本は北側で抜け、1本は南側で抜けた。丁度その間に断層が発生

19

T地点（小川町寺町）の段差による被害

地震前



地震で生じた段差を補修した後



(Googleストリートビューによる)

20

延福寺



➤ 段差上の建物が傾斜。



21

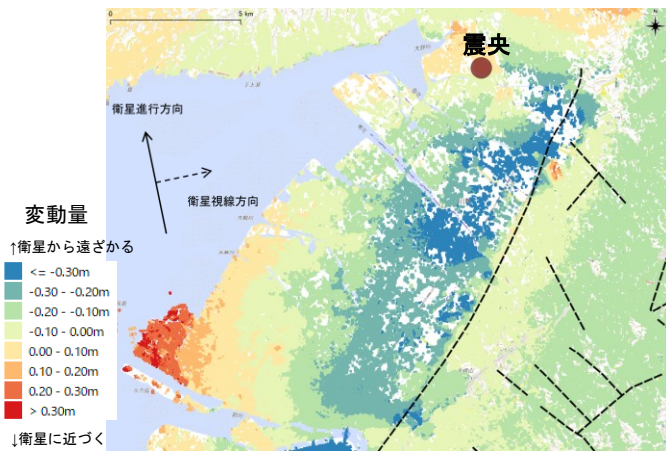


➤ 約1mの段差発生。



22

SARによる変動量の解析結果



(基礎地盤コンサルタンツ㈱提供)



(地理院地図に加筆)

- ALOS-4/PALSAR-3による2026/7/1と2026/7/29の北交軌道データを使用して解析。
- マイナスは衛星から遠ざかる（東または鉛直下）方向。
- 断層位置は国土数値情報の土地分類調査・水調査（引用元：<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/download.html>）による。

23

⑧八代郡氷川町野津～八代市鏡町下有佐付近

全壊した住宅



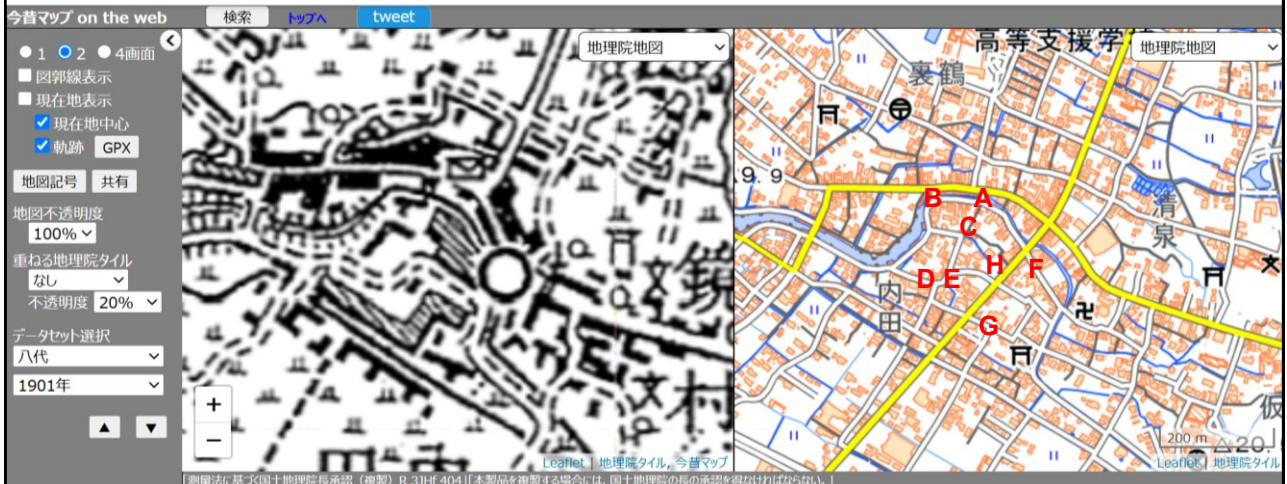
鹿児島本線の被害状況



- 全壊に至る住宅被害が発生している地区は点在している感じを受けた。
- 今後住宅被災地区の地盤条件などを調査する必要があるであろう。

24

⑨八代市鏡町鏡、内田



- A、B地点は鏡川上流部の蛇行区間。住民の方によると昔は魚の市場（今昔マップに加筆）のようになっていたとのこと。
- C～H地点は鏡川の蛇行洲内。

25

A地点



- 鏡川に張り出して建ててある建物が川の方に向かって倒壊。

B地点



- 鏡川に張り出している部分は杭で支えてある。

26

C地点



- 路地に噴砂。

C地点



- 交差点にうっすらと噴砂。
- 建物に被害なし。

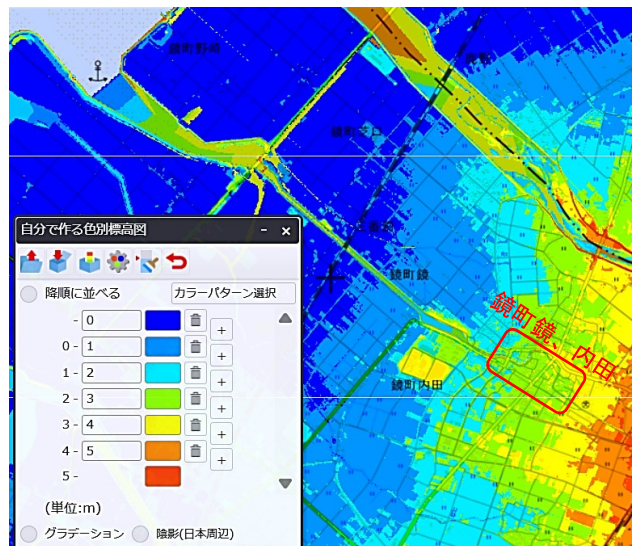
27

C地点



- 八代海が満潮のときにはこの細い水路はほぼ満杯になるとのこと。
- したがって、蛇行洲内は地下水位が大変浅いと推定される。

色別標高図



(地理院地図に加筆)

28

D地点



D地点



➤ 液状化ではなく震動で壊れたと考えられる家が少しあった。

29

E地点



E地点



30

F地点



G地点



31

H地点（鏡四つ角の少し南）



32

噴砂が見られた地点



(地理院地図に加筆)

- 蛇行洲内は各地で噴砂が少しずつ見られたが、液状化に伴う建物のめり込み沈下や傾斜は生じていないようである。したがって液状化層は薄いのではないかとと思われるの。
- 液状化するといえども建物に被害を与えない場合もあるので、液状化層厚・深度と建物の被害の関係を調べるために地盤調査を行うことが望まれる。

33

⑩熊本県八代市上片町

- A, B, D, E, F地点に地表断層が現れていた。
- 南九州自動車道妙見第一橋に被害発生。



(地理院地図に加筆)

34

A地点



➤ 断層の南側（手前）の墓石はあまり倒れていなかった。



➤ 断層の北側では墓石が傾いていた。

35

B地点



➤ 1.5～2m程度の段差が発生。



36

C地点



37

C地点

←北



B地点

北→



38

D地点



E地点



➤ D地点からE地点に断層が続いていた。

39

F地点



➤ 住民の方の話だと断層はE地点からF地点につながっているとのことであった。

40

⑪八代市新港町

くまもんポート八代



➤ 駐車場に噴砂あり。

—以上—